

2 社会的な課題を多面的・多角的に捉え、考察することができる教材・内容

コラム「歴史の窓」や特設ページを充実させ、本文とは異なる視点から歴史を捉えなおすことができるように工夫しました。資料を活用しながら多面的・多角的に考察し、根拠をもって判断し、豊かに表現する力を育みます。

学習内容の背景や影響を考察することができる「歴史の窓」

本文で学習した内容について、その歴史的対象の背景や影響を扱うコラムです。全体で19テーマを設けています。たとえばp.64~65では、本文で平氏政権を取り上げていますが、「歴史の窓」では、日宋貿易の相手国である宋の科学技術や文化などについて扱っています。またp.273の「歴史の窓」では、冷戦下の核開発や高度経済成長期の公害問題などと、特撮映画とのつながりを取り上げ、社会的なできごとが文化にも影響を与えていることに気づける内容になっています。

歴史の窓 宋と高麗

10世紀後半に中国を統一した宋(一p.50)は、12世紀前半に、北方におこった金の戦いに敗れ、都を南に移しました(南宋)。宋では、長江以南でも新田の開墾が進み、新たな都市が発達しました。茶や陶磁器などの生産も盛んになり、絹の貨幣(宋銭)とともに日本に輸出されました。また、木版印刷が広まり、火薬や羅針盤が活用されるなど、科学技術が発達しました。仏教では、禅宗や浄土宗が栄え、日本の仏教にも影響を与えました。儒教では、朱子の学が成立した。10世紀前半に朝鮮を統一した高麗(一p.50)では、仏教を国で保護し、経典が木版にほられて印刷されました。青磁とよばれた美しい磁器も作られ、これは日本にもたらされました。

12世紀の東アジアと日宋貿易

1 日宋貿易の行路
2 宋銭が朝鮮から東亞を運ばれたところ

3 慶應寺(鎌倉市)

4 12世紀の東アジアと日宋貿易

5 慶應寺(鎌倉市)

▲ p.64-65

戦争の記憶をつなぐ人々

戦争が人々の生活や社会にもたらす影響は、計り知れません。過去の戦争では、多くの人が命を失った。心身に深い傷を負った。日本はそうした経験を通して、戦争は国際社会に善をもたらすことなく、平和な時代を迎えています。これらが戦争の記憶を残し、二度と戦争を繰り返さないために、人々の取り組みが大切だと考えています。

戦争体験者の声を残す

日本では、兵士として戦争を体験した人々や、空襲の被害や疎開を体験した人々が語り継ぎ、戦争に生きる人々のために自らの経験を語り継ぎました。しかし、そうした活動は、戦争を体験した人々が高齢になり、継続していくことが難しくなっています。そうしたなかで、若い世代による語り継ぎなど、戦争の記憶を未来に残すための取り組みが各地で行われるようになっています。

2 ひめゆり学徒隊の手記
このような手記をまとめた資料も、戦争体験を知る手がかりになります。

3 空襲体験者の手記
空襲は、重要な戦争体験の一つです。空襲の被害を受けた人々の手記は、戦争の記憶を伝える重要な資料です。

世界の人々とともに、平和を語り継ぐ

「戦争の記憶を未来に伝える。次世代の人々へつなぐ。これこそが私たちの使命」という思いは、戦争を体験した世界各国に共通するもので、当時の状況を物語る資料や建物、戦争を体験した人々の証言などによって受け継がれていくべきです。大戦の中で大規模な犠牲を出したアフジビツなど、悲惨な歴史をもつ地域では、戦争に関する資料を収集・保存・展示する資料館や博物館を建て、歴史の継承に取り組んでいます。

7 アフジビツの歴史を説明する、中台(台湾)の人々

8 広島平和記念資料館の展示を見学する

9 アフジビツの歴史を説明する、中台(台湾)の人々

10 広島平和記念資料館の展示を見学する

▲ p.248-249

各地に残る戦争遺跡

戦争の記憶が刻まれた場所は、戦争遺跡として保存され、私たちに戦争の歴史を伝えます。

3 空襲を受けた鉄橋の一部(伊予長門市)

4 軍事用の資料を展示した展示場(徳島県高松市)

5 空襲を受けた鉄橋の一部(伊予長門市)

6 軍事用の資料を展示した展示場(徳島県高松市)

さまざまな形で戦争を伝える

広範囲の被害を受けた長門海峡、徳島海峡、そして広島。戦争の記憶を伝える重要な資料として残っています。戦争を体験した人々の証言や、空襲を体験した人々の証言は、戦争の記憶を伝える重要な資料として残っています。

7 空襲を受けた鉄橋の一部(伊予長門市)

8 軍事用の資料を展示した展示場(徳島県高松市)

視点を変えて、学習内容を捉えなおす特設ページ

歴史の動きについて、本時ページには登場しない人物の視点や、後の時代への影響やつながりなどの視点から、生徒が捉えなおすことができるページです。全体で20テーマを設けています。たとえばp.248~249では、第二次世界大戦の記録や記憶を継承する人々の取り組みを取り上げ、生徒が現代の私たちと過去の戦争とのつながりに気づけます。またp.268~269では、現代の日本の領域をめぐる課題について、明治期の領土の画定(p.176~177)と結び付けながら学習することができます。

歴史の窓 戦後復興の文化

戦後、GHQは占領政策の範囲の中で言論の自由を認め、新聞・雑誌・書籍の出版が盛んになりました。占領の影響で、ジャズ音楽やハリウッド映画などのアメリカ文化が広がり、人々に親しまれました。娯楽や文化は戦争中の統制を解かれ、街には「リングの頂」などの明るいイメージが広がりました。人々に解放感を与えました。

4 湯川秀樹
戦後復興の文化

5 わが家にテレビがやってきた

6 戦後復興の文化

歴史の窓 ゴジラが見た日本社会

特撮映画『ゴジラ』の第1作は、1954年11月に公開されました。ゴジラは、南太平洋の海底で生き残った太古の恐竜で、水爆実験によって眠りから覚め、水爆のエネルギーを体にためた怪獣となって人類を襲うという設定でした。同年3月には、アメリカが太平洋のビキニ環礁で水爆実験を行って、日本のマグロ漁船第五福丸が被ばくし、原水爆禁止運動が高まっていました(一p.263)。冷戦下の核開発と、反核運動の高まりの中で映画は公開されたのです。

7 映画『ゴジラ対ヘドラ』のポスター

8 戦後復興の文化

9 わが家にテレビがやってきた

10 戦後復興の文化

▲ p.272-273

歴史の窓 ゴジラが見た日本社会

特撮映画『ゴジラ』の第1作は、1954年11月に公開されました。ゴジラは、南太平洋の海底で生き残った太古の恐竜で、水爆実験によって眠りから覚め、水爆のエネルギーを体にためた怪獣となって人類を襲うという設定でした。同年3月には、アメリカが太平洋のビキニ環礁で水爆実験を行って、日本のマグロ漁船第五福丸が被ばくし、原水爆禁止運動が高まっていました(一p.263)。冷戦下の核開発と、反核運動の高まりの中で映画は公開されたのです。

1971年に公開された第11作『ゴジラ対ヘドラ』は、汚染された海のヘドラを食べて巨大化する怪獣ヘドラとゴジラが戦う設定で、高度経済成長期に発生した公害問題(一p.271)を背景にしています。エンターテインメント性の高い特撮映画にも、当時の社会問題が映し出されています。

6 映画『ゴジラ対ヘドラ』のポスター

形づくられる日本

日本の領土の画定と北緯線・南緯線

15 形づくられる日本

16 北緯線と南緯線

隣国と向き合うために

日本の領土をめぐる課題

17 北緯線と南緯線

18 北緯線と南緯線

▲ p.176-177

北緯線と南緯線

日本の領土をめぐる課題

19 北緯線と南緯線

20 北緯線と南緯線

尖閣諸島(沖縄県)

日本の領土をめぐる課題

21 北緯線と南緯線

22 北緯線と南緯線

▲ p.268-269

3 身近な地域から社会を考えることができる教材・内容

我が国の多様な伝統・文化や、身近な地域の歴史を調べる活動の事例を、第1章のほか各章で紹介することで、我が国や郷土の伝統・文化を理解し、尊重しようとする態度を養えるように工夫しました。

身近な地域の歴史を調べ、自分たちと歴史のつながりを意識できるページの充実

身近な地域の歴史を調べる学習活動に資するページを各章に設けました。第1章では調査活動の手法などを中心に、第2～7章では各時代の学習内容と関連する地域の伝統・文化や人物などを中心に展開しています。生徒が、社会に開かれた学びのなかで、郷土の豊かな伝統・文化を知るとともに、自分たちの地域や歴史との関わりを意識して学習できるように工夫しました。

good

2 身近な地域の歴史を調べよう
身近な地域の歴史を調べる学習活動について学びましょう。(ここでは新潟県新潟市を例にします。)

1 テーマを決めよう ▶ 地域にはどんな歴史があるかな
歴史は、教科書や本だけでなく、私たちの身のまわりにもあふれています。身近な地域を調べ、歴史を知るきっかけの一つです。次のページや行事など地域の歴史を知るきっかけの一つです。次のページや行事など地域の歴史を知るきっかけの一つです。

4 野外調査・聞き取り調査を進めよう ▶ 課題についてどんなことがわかるかな
調査計画を立て、計画に沿って調査を進めよう。野外調査では、町並みや建物、公園の像や石塔などを観察することで、教室の中では出せない歴史を発見することができます。

5 整理して考察しよう ▶ 調べたこと何かわかったかな
メモや写真などの記録や集めた資料を整理して、調査してきた課題についてどのようなことがいえるかを、考察しましょう。その際には、調べたことに基づいて、仮定を立て仮説を検証しましょう。また、今回の調査では、事前に連絡して許可を取り、あらかじめ質問事項を用意して、メモ・筆記用具など記録の準備をしておきましょう。

2 身近な地域の歴史を調べよう
地域の遺跡や古墳を訪ねて

日では、行方不明、遺跡を中心とする調査が行われてきました。近年の研究では、縄文時代にも植物の栽培や、優れた技術の人や物の交流が行われていたと見られ、縄文時代には農業も盛んだったことが明らかになっており、縄文時代に持続可能な社会が実現されていたことが注目されています。

3 縄文時代の遺跡
新潟県新潟市にある三内丸山遺跡は、今から約5500～4000年前の縄文時代の集落跡で、広さ約35haに及ぶと推定されています。奥平川が流れる谷間に、高さ約15m、木柱の遺構が約100本ある巨大な建物跡です。この遺跡は、どのような目的で建てられたのでしょうか。また、青森県八戸市には、縄文時代の終わりごろの縄文土器の出土が確認されています。美しい文様の土器や木製品が多数出土しています。

4 縄文時代の遺跡
新潟県新潟市にある上野原遺跡では、今から約5500年前の縄文時代の集落跡が発見されています。縄文時代の遺跡は、石塔や石帯などの遺構により、縄文時代の早い時期からこの場所が大規模な集落ができていたことが明らかになっています。出土した土器の中には、全国でも珍しい形のものもあり、縄文時代の独自に作られた形だと考えられています。

5 縄文時代の遺跡
新潟県新潟市にある上野原遺跡では、66基の古墳が分かっています。そのうち7基は「石塔式古墳」として国の史跡に指定されています。志保峠古墳は、前方後円墳の一種で、石塔が特徴です。

地域の商店街や博物館での調査に取り組む様子を掲載しています。(p.10～16)

地域の遺跡や遺物などの文化財から学ぶ様子を掲載しています。(p.36～37)

多様な伝統・文化や、それを創り・伝える人たちの営みについて考えることができる内容の充実

日本の多様な伝統・文化について、どのような歴史的背景の中で形づくられてきたのか、どのように守り・伝えられてきたのか、生徒が深く理解できるよう、文化の取り扱いを充実させました。

13 今につながる文化の芽生え ▶ 室町文化とその広まり

14 室町文化とその広まり
室町文化は、どのような特色をもった文化が生まれたのでしょうか。

15 室町文化とその広まり
室町文化は、どのような特色をもった文化が生まれたのでしょうか。

16 室町文化とその広まり
室町文化は、どのような特色をもった文化が生まれたのでしょうか。

17 室町文化とその広まり
室町文化は、どのような特色をもった文化が生まれたのでしょうか。

18 室町文化とその広まり
室町文化は、どのような特色をもった文化が生まれたのでしょうか。

19 室町文化とその広まり
室町文化は、どのような特色をもった文化が生まれたのでしょうか。

20 室町文化とその広まり
室町文化は、どのような特色をもった文化が生まれたのでしょうか。

21 室町文化とその広まり
室町文化は、どのような特色をもった文化が生まれたのでしょうか。

日本の多様な伝統・文化の例として、沖縄(琉球)と北海道(アイヌ民族)の文化と、それを継承した人々の営みを掲載しました。(p.184～185)

室町時代の文化を扱うページでは、現代の文化へのつながりや、庭園造りに携わった人々の活躍についても学びます。(p.86～87)

琉球とアイヌの文化を伝えた人たち
1879(明治12)年、琉球処分によって、琉球王国は日本に併合されました。それまで琉球王国は、日本や中国などアジアの国々との交流を通じて、独自の文化を発展させてきました。併合政策がとられるようになり、しだいにその文化は継承されるようになりました。そのような中で、琉球の歴史や文化を研究し、沖縄の歴史や文化を伝える人々もいました。当時の沖縄の状況や、琉球を研究した人たちの取り組みの様子を調べてみましょう。

伊波普猷と琉球処分
伊波普猷は、琉球処分の3年前の1876年、島嶼(島村)の在沖(現沖縄県那覇市)に生まれました。琉球処分後も、沖縄に留まり、言語学や歴史学などで研究を続けました。1911年に『琉球学』という著書を発表しました。この著書は、琉球の歴史や文化を詳しく紹介し、琉球の文化が中国や日本と異なることを示しました。また、琉球の文化が中国や日本と異なることを示しました。また、琉球の文化が中国や日本と異なることを示しました。

「琉球学」の父
1910年、伊波普猷が『琉球学』を発表しました。この著書は、琉球の歴史や文化を詳しく紹介し、琉球の文化が中国や日本と異なることを示しました。また、琉球の文化が中国や日本と異なることを示しました。また、琉球の文化が中国や日本と異なることを示しました。

知里幸恵と金田一京助
1918年の夏、知里幸恵は北海道に生まれ、金田一京助の著書『アイヌの文化』を読みました。この著書は、アイヌの歴史や文化を詳しく紹介し、アイヌの文化が中国や日本と異なることを示しました。また、アイヌの文化が中国や日本と異なることを示しました。また、アイヌの文化が中国や日本と異なることを示しました。

アイヌの文化
アイヌの文化は、北海道に生まれ、金田一京助の著書『アイヌの文化』を読みました。この著書は、アイヌの歴史や文化を詳しく紹介し、アイヌの文化が中国や日本と異なることを示しました。また、アイヌの文化が中国や日本と異なることを示しました。また、アイヌの文化が中国や日本と異なることを示しました。